

21世紀COEプログラム 平成16年度採択拠点中間評価について

平成18年9月
21世紀COEプログラム委員会

21世紀COEプログラムは、「大学の構造改革の方針」（平成13年6月）に基づき、平成14年度から「研究拠点形成費等補助金」により、文部科学省によって開始された事業である。

このプログラムは、我が国の大学に世界最高水準の研究教育拠点を形成し、研究水準の向上と世界をリードする創造的な人材育成を図るため、重点的な支援を行い、もって、国際競争力のある個性輝く大学づくりを推進することを目的としている。

研究拠点形成費等補助金は、専門家や有識者による評価に基づき、主として研究面においてポテンシャルの高い専攻等が世界最高水準の研究教育拠点を形成するために必要とする経費を専攻等の研究者からなる研究グループに対して補助を行うもので、

- ①当該分野における研究上、優れた成果を挙げ、将来の発展性もあり、高度な研究能力を有する人材育成機能を持つ研究教育拠点の形成が期待できるもの
 - ②学長を中心としたマネジメント体制による指導力の下、個性的な将来計画と強い実行力により、世界的な研究教育拠点の形成が期待できるもの
 - ③特色ある学問分野の開拓を通じて、創造的、画期的な成果が期待できるもの
 - ④21世紀COEプログラムで行う事業が終了した後も、世界的な研究教育拠点としての継続的な研究教育活動が期待できるもの
- に対し、重点的支援を行うものである。

中間評価は、補助金による21世紀COEプログラム事業の効果的な実施を図り、その目的が十分達成されるよう、専門家や有識者により補助事業の進捗状況等を確認し、適切な助言を行うとともに、補助金の適正配分（重点的・効率的配分）に資することを目的とし、審査・評価に基づき選定された採択拠点について、評価要項に基づいて、2年経過後に行うものである。

平成16年度採択拠点の中間評価は、独立行政法人日本学術振興会において、平成16年度に選定された「革新的な学術分野」の国公立大学24大学28件の拠点から、進捗状況報告書や拠点形成計画調書等の各種調書の提出を受け、21世紀COEプログラム委員会（独立行政法人日本学術振興会を中心に、独立行政法人大学評価・学位授与機構、日本私立学校振興・共済事業団、財団法人大学基準協会の4機関により運営）において、世界最高水準の研究教育拠点の形成という目的で、現時点での進捗状況を確認し、当初目標どおりの達成が可能か否かについて専門的観点から実施したものである。

9月27日の本委員会において、「革新的な学術分野」審査・評価部会における総括評価の結果等、中間評価結果を取りまとめた。

今後、各大学・拠点において、評価結果（総括評価・コメント）を基に、計画の推進または見直しを行い、最大限の成果を挙げることを期待し、公表するものである。

別紙資料

1. 21世紀COEプログラム 平成16年度採択拠点一覧
2. 21世紀COEプログラム 平成16年度採択拠点中間評価について
3. 21世紀COEプログラム 平成16年度採択拠点中間評価日程
4. 21世紀COEプログラム委員会等委員名簿
5. 「21世紀COEプログラム」評価要項
6. 21世紀COEプログラム 平成16年度採択拠点中間評価【特色ある拠点例】
7. 21世紀COEプログラム 平成16年度採択拠点別中間評価結果

1. 21世紀COEプログラム 平成16年度採択拠点一覧

拠点番号	拠点プログラム名	機関名	中核となる専攻等名	職名	リーダー
K01	トポロジー理工学の創成	北海道大学	工学研究科応用物理学専攻	教授	丹田 聡
K02	海洋生命統御による食糧生産の革新 —海の生物の高度で安全な活用を目指して—	北海道大学	水産科学研究所海洋応用生命科学部門	特任教授	山内 皓平
K03	熱—生命システム相関学拠点創成： 生物の寒冷応答機構をモデルとして	岩手大学	連合農学研究科生物資源科学専攻	教授	上村 松生
K04	医薬開発統括学術分野創生と人材育成拠点	東北大学	薬学研究科医療薬科学専攻	教授	今井 潤
K05	加速器テクノロジーによる医学・生物学研究	群馬大学	医学系研究科医科学専攻	教授	中野 隆史
K06	持続可能な福祉社会に向けた公共研究拠点	千葉大学	人文社会科学研究科公共研究専攻	教授	廣井 良典
K07	言語から読み解くゲノムと生命システム —次世代バイオインフォマティクス拠点の創成—	東京大学	新領域創成科学研究科情報生命科学専攻	教授	高木 利久
K08	次世代ユビキタス情報社会基盤の形成	東京大学	情報学環・学際情報学府学際情報学専攻	教授	坂村 健
K09	インスティテューショナル技術経営学 —日本型共進ダイナミズムの解明と世界価値への昇華—	東京工業大学	社会理工学研究科経営工学専攻	教授	渡辺 千仞
K10	エージェントベース社会システム科学の創出	東京工業大学	総合理工学研究科知能システム科学専攻	教授	出口 弘
K11	地球：人の住む惑星ができるまで	東京工業大学	理工学研究科地球惑星科学専攻	教授	高橋 栄一
K12	ヨーロッパの革新的研究拠点—衝突と和解	一橋大学	法学研究科法学・国際関係専攻	教授	山内 進
K13	発達・学習・記憶と障害の革新脳科学の創成： 文理架橋型研究による挑戦の第一ステージ	金沢大学	医学系研究科脳医科学専攻	教授	東田 陽博
K14	検証進化可能電子社会 —情報科学による安心な電子社会の実現—	北陸先端科学技術大学院大学	情報科学研究科情報システム学専攻	教授	片山 卓也
K15	衛星生態学創生拠点 —流域圏をモデルとした生態系機能評価—	岐阜大学	流域圏科学研究センター	教授	小泉 博
K16	ナノビジョンサイエンスの拠点創成	静岡大学	創造科学技術大学院自然科学系教育部ナノビジョン学専攻	教授	三村 秀典
K17	計算科学フロンティア	名古屋大学	工学研究科計算理工学専攻	教授	金田 行雄
K18	昆虫科学が拓く未来型食料環境学の創生	京都大学	農学研究科応用生物科学専攻	教授	藤崎 憲治
K19	細胞・組織の統合制御にむけた総合拠点形成	大阪大学	医学系研究科病態制御医学専攻	教授	仲野 徹
K20	古代日本形成の特質解明の研究教育拠点	奈良女子大学	人間文化研究科比較文化学専攻	教授	舘野 和己
K21	染色体工学技術開発の拠点形成	鳥取大学	医学系研究科機能再生医科学専攻	教授	押村 光雄
K22	超速ハイパーヒューマン技術が開く新世界 (21世紀産業革命に向けて)	広島大学	工学研究科複雑システム工学専攻	教授	金子 真
K23	サンゴ礁島嶼系の生物多様性の総合解析： アジア太平洋域における研究教育拠点形成	琉球大学	理工学研究科海洋環境学専攻	教授	土屋 誠
K24	疲労克服研究教育拠点の形成	大阪市立大学	医学研究科基礎医科学専攻	教授	渡邊 恭良
K25	日本漢文学研究の世界的拠点の構築	二松学舎大学	文学研究科中国学専攻	教授	高山 節也
K26	伝承からプロテオームまでの統合創薬の開拓 —生物分子基盤の革新的難病治療薬創製—	京都薬科大学	薬学研究科薬学専攻	教授・センター長	木曾 良明
K27	社会マネジメント・システム ～社会基盤工学的視点によるアプローチ～	高知工科大学	工学研究科基盤工学専攻	教授	那須 清吾
K28	柿右衛門様式陶芸研究センタープログラム	九州産業大学	芸術研究科造形表現専攻	教授	下村 耕史

2. 21世紀COEプログラム 平成16年度採択拠点中間評価について

【革新的な学術分野】 総括評価結果

総括評価	拠点数
<input type="checkbox"/> 当初計画は順調に実施に移され、現行の努力を継続することによって目的達成が可能と判断される。	10 件
<input type="checkbox"/> 当初目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要と判断される。	17
<input type="checkbox"/> このままでは当初目的を達成することは難しいと思われるので、助言等に留意し、当初計画の適切なる変更が必要と判断される。	1
<input type="checkbox"/> 現在までの進捗状況等に鑑み、今後の努力を待っても当初目的の達成は困難と思われるので、拠点形成を継続するためには、助言等に沿って、当初目的を絞り込んだ上で当初計画を大幅に縮小することが必要と判断される。	0
<input type="checkbox"/> 現在までの進捗状況等に鑑み、今後の努力を待っても当初目的の達成は困難と思われるので、拠点形成を中止することが必要と判断される。	0
計	28

(総括評価内訳)

当初計画は順調に実施に移され、現行の努力を継続することによって目的達成が可能と判断される：10件

拠点番号	拠点プログラム名	機関名
K05	加速器テクノロジーによる医学・生物学研究	群馬大学
K08	次世代ユビキタス情報社会基盤の形成	東京大学
K11	地球：人の住む惑星ができるまで	東京工業大学
K15	衛星生態学創生拠点－流域圏をモデルとした生態系機能評価－	岐阜大学
K16	ナノビジョンサイエンスの拠点創成	静岡大学
K17	計算科学フロンティア	名古屋大学
K19	細胞・組織の統合制御にむけた総合拠点形成	大阪大学
K22	超速ハイパーヒューマン技術が開く新世界(21世紀産業革命に向けて)	広島大学
K26	伝承からプロテオームまでの統合創薬の開拓－生物分子基盤の革新的難病治療薬創製－	京都薬科大学
K28	柿右衛門様式陶芸研究センタープログラム	九州産業大学

当初目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要と判断される：17件

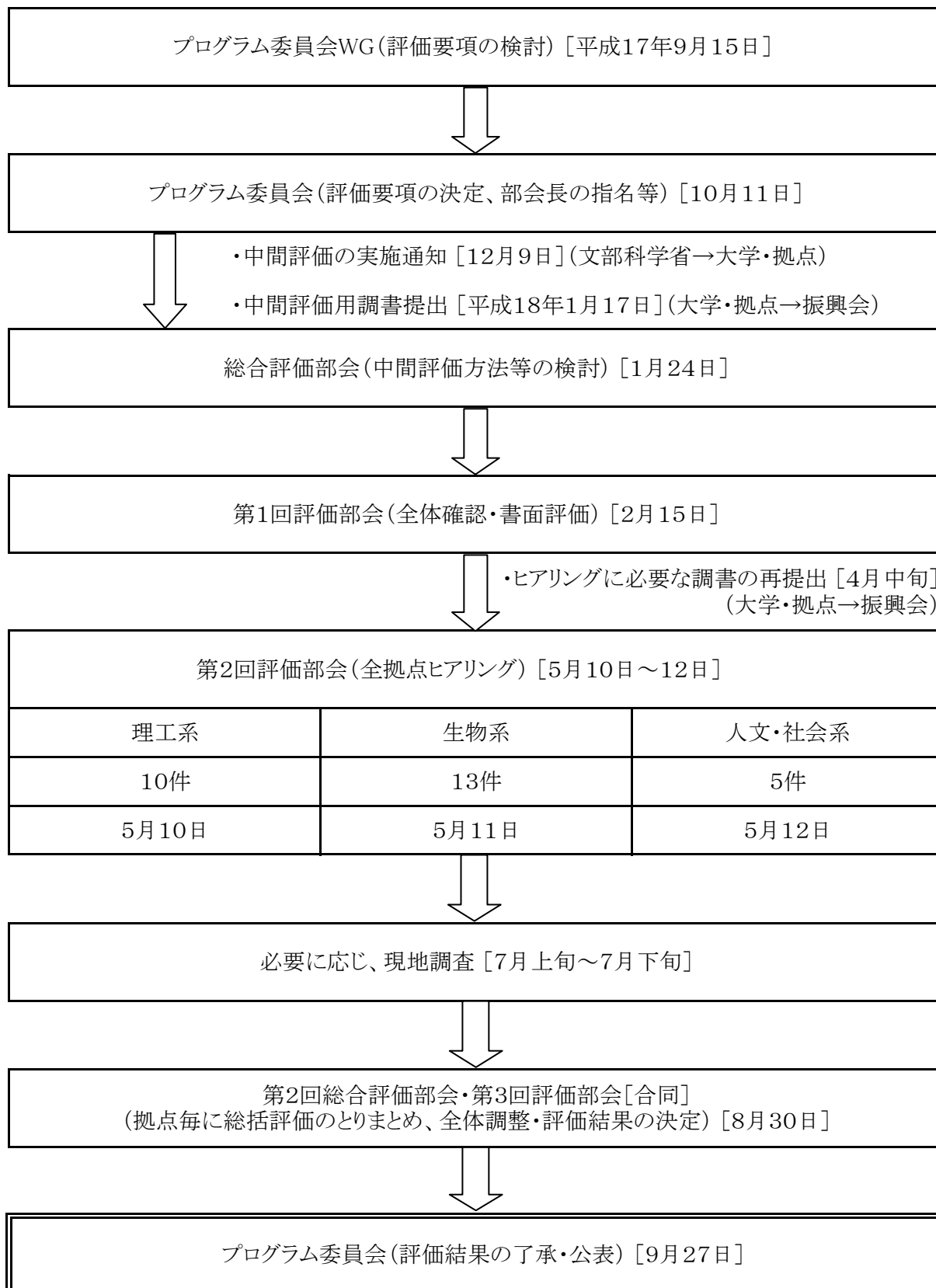
拠点番号	拠点プログラム名	機関名
K01	トポロジー理工学の創成	北海道大学
K02	海洋生命統御による食糧生産の革新－海の生物の高度で安全な活用を目指して	北海道大学
K03	熱－生命システム相関学拠点創成：生物の寒冷応答機構をモデルとして	岩手大学
K04	医薬開発統括学術分野創生と人材育成拠点	東北大学
K06	持続可能な福祉社会に向けた公共研究拠点	千葉大学
K07	言語から読み解くゲノムと生命システム－次世代バイオインフォマティクス拠点の創成－	東京大学
K09	インスティテューショナル技術経営学－日本型共進ダイナミズムの解明と世界価値への昇華	東京工業大学
K10	エージェントベース社会システム科学の創出	東京工業大学
K12	ヨーロッパの革新的研究拠点－衝突と和解	一橋大学
K13	発達・学習・記憶と障害の革新脳科学の創成：文理架橋型研究による挑戦の第一ステージ	金沢大学
K14	検証進化可能電子社会－情報科学による安心な電子社会の実現－	北陸先端科学技術大学院大学
K20	古代日本形成の特質解明の研究教育拠点	奈良女子大学
K21	染色体工学技術開発の拠点形成	鳥取大学
K23	サンゴ礁島嶼系の生物多様性の総合解析：アジア太平洋域における研究教育拠点形成	琉球大学
K24	疲労克服研究教育拠点の形成	大阪市立大学
K25	日本漢文学研究の世界的拠点の構築	二松学舎大学
K27	社会マネジメント・システム～社会基盤工学的視点によるアプローチ～	高知工科大学

このままでは当初目的を達成することは難しいと思われるので、助言等に留意し、当初計画の適切なる変更が必要と判断される：1件

拠点番号	拠点プログラム名	機関名
K18	昆虫科学が拓く未来型食料環境学の創生	京都大学

3. 21世紀COEプログラム 平成16年度採択拠点中間評価日程

〈革新的な学術分野〉



4. 21世紀COEプログラム委員会等委員名簿

21世紀COEプログラム委員会委員名簿

	青木 昌彦	スタンフォード大学名誉教授
	安西 祐一郎	慶応義塾長
	生駒 俊明	科学技術振興機構研究開発戦略センター長
〈副委員長〉	石井 米雄	人間文化研究機構長
	岩男 壽美子	慶應義塾大学名誉教授
〈委員長〉	江崎 玲於奈	財団法人茨城県科学技術振興財団理事長
	小野 元之	独立行政法人日本学術振興会理事長
	勝木 元也	自然科学研究機構基礎生物学研究所長
	金澤 一郎	国立精神・神経センター総長
	金森 順次郎	財団法人国際高等研究所長
	川那部 浩哉	滋賀県立琵琶湖博物館長
	岸 輝雄	独立行政法人物質・材料研究機構理事長
	木村 孟	独立行政法人大学評価・学位授与機構長
	郷 通子	お茶の水女子大学長
	小宮山 宏	東京大学総長
	白井 克彦	早稲田大学総長
	末松 安晴	情報・システム研究機構国立情報学研究所顧問
	鈴木 昭憲	東京大学名誉教授
	田村 和子	共同通信社客員論説委員
	丹保 憲仁	放送大学長
	外村 彰	株式会社日立製作所フェロー
	鳥居 泰彦	日本私立学校振興・共済事業団理事長
	長田 豊臣	立命館総長
	中村 桂子	JT生命誌研究館長
	中森 喜彦	京都大学理事・副学長
	西澤 潤一	首都大学東京学長
	増本 健	財団法人電気磁気材料研究所長
	山田 康之	奈良先端科学技術大学院大学名誉教授

(計28名)

21世紀COEプログラム委員会 ワーキング・グループ委員名簿

	青木 昌彦	スタンフォード大学名誉教授
	生駒 俊明	科学技術振興機構研究開発戦略センター長
<座長>	石井 米雄	人間文化研究機構長
	岩男 壽美子	慶應義塾大学名誉教授
	金澤 一郎	国立精神・神経センター総長
	金森 順次郎	財団法人国際高等研究所長
	川那部 浩哉	滋賀県立琵琶湖博物館長
	末松 安晴	情報・システム研究機構国立情報学研究所顧問
	丹保 憲仁	放送大学長
	外村 彰	株式会社日立製作所フェロー
	中村 桂子	JT生命誌研究館長
	増本 健	財団法人電気磁気材料研究所長
	山田 康之	奈良先端科学技術大学院大学名誉教授

(計13名)

21世紀COEプログラム委員会 総合評価部会委員名簿

石井 米雄 人間文化研究機構長

金澤 一郎 国立精神・神経センター総長

<部会長> 金森 順次郎 財団法人国際高等研究所長

川那部 浩哉 滋賀県立琵琶湖博物館長

末松 安晴 情報・システム研究機構国立情報学研究所顧問

中村 桂子 JT生命誌研究館長

(計6名)

21世紀COEプログラム委員会 革新的な学術分野審査・評価部会委員名簿

(分属委員)

	生駒 俊明	科学技術振興機構研究開発戦略センター長
<副部会長>	石井 米雄	人間文化研究機構長
	岩男 壽美子	慶應義塾大学名誉教授
	勝木 元也	自然科学研究機構基礎生物学研究所長
	金澤 一郎	国立精神・神経センター総長
<部会長>	金森 順次郎	財団法人国際高等研究所長
	川那部 浩哉	滋賀県立琵琶湖博物館長
	末松 安晴	情報・システム研究機構国立情報学研究所顧問
	丹保 憲仁	放送大学長
	外村 彰	株式会社日立製作所フェロー
	中村 桂子	JT生命誌研究館長
	増本 健	財団法人電気磁気材料研究所長
	山田 康之	奈良先端科学技術大学院大学名誉教授

(専門委員)

	渥美 東洋	京都産業大学大学院法務研究科教授
	阿部 永	元北海道大学農学部教授
	阿部 光幸	兵庫県立粒子線医療センター名誉院長
	甘利 俊一	独立行政法人理化学研究所脳科学総合研究センター長
	伊井 春樹	人間文化研究機構国文学研究資料館長
	石田 瑞穂	独立行政法人防災科学技術研究所フェロー
	石濱 明	法政大学工学部教授
	大島 泰郎	共和化工株式会社環境微生物学研究所長
	樺山 紘一	印刷博物館長
	黒川 洸	財団法人計量計画研究所理事長
	合志 陽一	筑波大学監事
	後藤 敏	早稲田大学大学院情報生産システム研究科教授
	小原 雄治	情報・システム研究機構理事
	齋藤 英彦	JR東海総合病院長
	桜井 靖久	東京女子医科大学顧問・名誉教授
	桜井 由躬雄	東京大学大学院人文社会系研究科教授
	佐々木 幸子	元名古屋大学教授
	白井 良明	立命館大学情報理工学部教授
	高柳 英明	東京理科大学理学部教授
	辻中 豊	筑波大学大学院人文社会科学系研究科教授
	津本 忠治	独立行政法人理化学研究所脳科学総合研究センター津本研究ユニットユニットリーダー
	鶴尾 隆	財団法人癌研究会癌化学療法センター所長
	東倉 洋一	情報・システム研究機構国立情報学研究所副所長
	永井 克孝	独立行政法人理化学研究所研究顧問
	西野 麻知子	滋賀県立琵琶湖・環境科学研究センター総括研究員
	福嶋 義宏	人間文化研究機構総合地球環境学研究所教授
	福山 秀敏	東京理科大学理学部教授
	八代 尚宏	国際基督教大学教養学部教授
	山田 幸三	上智大学経済学部教授
	吉田 光昭	東京大学名誉教授
	和田 英太郎	独立行政法人海洋研究開発機構地球環境フロンティア研究センター生態系変動予測研究プログラムディレクター

5. 「21世紀COEプログラム」評価要項

平成17年10月11日
21世紀COEプログラム委員会

研究拠点形成費等補助金（以下、「補助金」という。）により実施される「21世紀COEプログラム」事業の中間・事後評価は、この評価要項により行うものとする。

1. 評価の目的

補助金による「21世紀COEプログラム」事業の効果的な実施を図り、その目的が十分達成されるよう、専門家や有識者により補助事業の進捗状況等を確認し、適切な助言を行うとともに、補助金の適正配分（重点的・効率的配分）に資することを目的とする。

21世紀COEプログラムは、我が国の大学に世界最高水準の研究教育拠点を学問分野毎に形成し、研究水準の向上と世界をリードする創造的な人材育成を図るため、重点的な支援を行い、もって、国際競争力のある個性輝く大学づくりを推進することを目的とする。

2. 評価の時期

「21世紀COEプログラム」に採択された各研究教育拠点（以下、「各拠点」という）の補助事業について、2年経過後に中間評価、期間終了後に事後評価、必要に応じてフォローアップを実施する。

3. 評価委員

分野別審査・評価部会における評価委員の構成は、次のとおりとする。

- ① 各拠点の選定に係る審査状況、審査経過等を熟知している専門家や有識者
- ② 各拠点の選定に携わっていない者で、専門的観点から高い知見を有する専門家や有識者

4. 評価の実施

補助事業の進捗状況等の評価を行うにあたり、当該評価の公正さ、信頼性を確保し、実効性のある評価を実施するために、評価項目、評価方法（評価資料、評価過程・手続等）を次のとおりとする。

（1）評価項目

① 運営状況

（中間評価）

- ・ 学長を中心としたマネジメント体制の下、重点的な支援が行われているか
- ・ 革新的な学術分野の開拓を目指す拠点形成の当初目的に沿って、計画は着実に進展しているか
- ・ 研究活動において、新たな学術的知見の創出や特筆すべきことがあったか
- ・ 若手研究者が有為な人材として活躍できるような仕組みを措置し、機能しているか
- ・ 拠点リーダーを中心として事業推進担当者相互の有機的な連携が保たれ、活発な研究活動が展開される組織となっているか
- ・ 国際競争力のある大学づくりに資するための取組みを行っているか
- ・ 研究経費は効率的・効果的に使用されているか
- ・ 国内外に向けて積極的な情報発信が行われているか

(事後評価)

- ・学長を中心としたマネジメント体制の下、重点的な支援が行われたか
- ・当初の拠点形成の目的は達成できたか
- ・研究活動において、新たな学術的知見等があったか
- ・若手研究者の育成効果があがっているか。また、それは、研究教育拠点形成に寄与しているか
- ・国際競争力のある大学づくりに資することができたか
- ・補助事業終了後の発展を期待できるのか

② 留意事項への対応

(中間評価)

- ・「21世紀COEプログラム委員会」の審査結果による留意事項への対応を適切に行っているか

(事後評価)

- ・「21世紀COEプログラム委員会」の審査結果・中間評価結果による留意事項への対応を適切に行っているか

③ 今後の展望

(中間評価)

- ・今後、拠点形成を進める上で改善点を検討し、適切に対応しているか
- ・COEとして、研究を通じた人材育成の評価、国際的評価、国内の関連する学会での評価、産学官連携の視点からの評価、社会貢献等が期待できるか
- ・拠点形成計画が当初目的の実現に向け着実に実施されており、革新的な学術分野の開拓を通じて独創的、画期的な成果が期待できるか

(事後評価)

- ・補助事業終了後、大学として、世界的な研究教育拠点の形成に際し、継続的な研究教育活動が実施できるような支援を考慮しているか

④ その他

(中間評価)

- ・学内外に対しどのようなインパクト等を与えたか

(事後評価)

- ・国際的拠点として特色を国内外に効果的に示すことができたか

(2) 評価方法

21世紀COEプログラムの評価は、分野別審査・評価部会（各年度の評価対象部会は6．評価体制に記載）において書面・合議評価及びヒアリング・合議評価により実施される。（7．評価手順を参照）

各審査・評価部会は、評価の重複を避けるよう既に行われた審査・評価結果を活用し、評価目的や評価対象に応じた適切な方法により、中立・公平かつ効率的・効果的な評価を行う。

① 書面・合議評価

評価委員は、各拠点について次の評価資料により個別評価を行い、合議により評価を行う。

(中間評価)

- ・「21世紀COEプログラム」中間評価用調書
 - a) 進捗状況報告書(主な発表論文の抜刷を添付)
 - b) 拠点形成計画調書 等
- ・審査結果表
- ・拠点形成計画調書（審査結果表に基づく修正版）

(事後評価)

- ・実績報告書（5年間まとめ）（主な発表論文の抜刷を添付）
- ・審査結果表及び中間評価結果表
- ・拠点形成計画調書（審査結果表に基づく修正版）
- ・進捗状況報告書・拠点形成計画調書（中間評価結果表に基づく修正版）

② ヒアリング・合議評価

各審査・評価部会において、評価委員は上記の評価資料等を基礎にした各拠点の説明に対し、個々の個別評価（書面評価）に基づきヒアリングを行い、その後合議評価をし、拠点形成（補助事業）の今後の進め方や助言等をまとめる。

なお、ヒアリング・合議評価を行った上で、必要に応じ、a)学長同行の再ヒアリング、b)現地調査を実施する。

③ 評価の決定・了承

各審査・評価部会は各拠点の評価結果をまとめ、総合評価部会に報告する。その報告を受け、総合評価部会は、各審査・評価部会等における各拠点の評価結果について全体調整を行い、各拠点の評価結果を決定する。

なお、各審査・評価部会において当初目的の達成は困難であると判断された拠点については、調整部会が反論等の機会を設けて、当初目的の絞り込みによる計画の大幅な縮小又は中止の必要性等について評価を行う。

総合評価部会は、各拠点の評価結果を21世紀COEプログラム委員会に報告し、了承を得る。

5. その他

(1) 評価の反映

21世紀COEプログラム委員会は、了承した各拠点の評価結果を文部科学省に報告し、文部科学省が行う第4年次以降の補助金の適正配分（増額、減額又は廃止等）に資する。また、拠点形成の推進に向けて適切な助言を行うために、各拠点に対しこの評価結果を通知（開示）する。

(2) 評価の公開等

- ① 評価に係る審議は非公開とし、その経過は他に漏らさない。
- ② 評価終了後、各拠点の中間・事後評価結果及び進捗状況等をホームページへの掲載等により公開する。

(3) 利害関係者の排除

各拠点と関わりのある次の者（利害関係者）は、評価を行わない。

- ① 大学院等の運営に関与している者（例：学長、副学長、研究科長）
- ② 各拠点のリーダー及び事業推進担当者
- ③ 各拠点のリーダーが所属する組織（例：大学院研究科専攻等）の構成員
- ④ その他中立・公平に評価を行うことが困難と判断される者

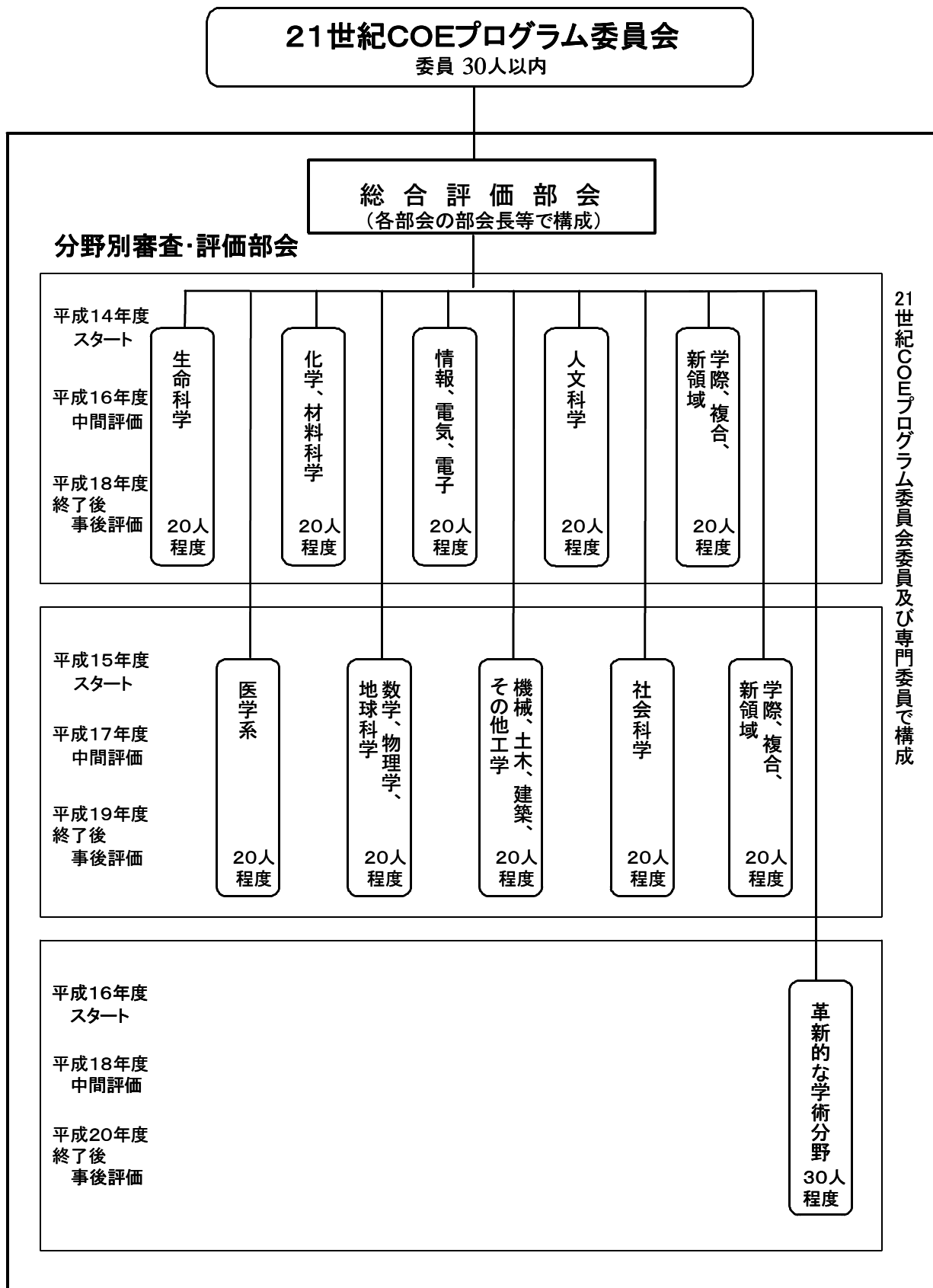
(4) フォローアップ

各審査・評価部会は、中間評価結果を受けての対応状況について、必要に応じ、その状況を確認することができる。

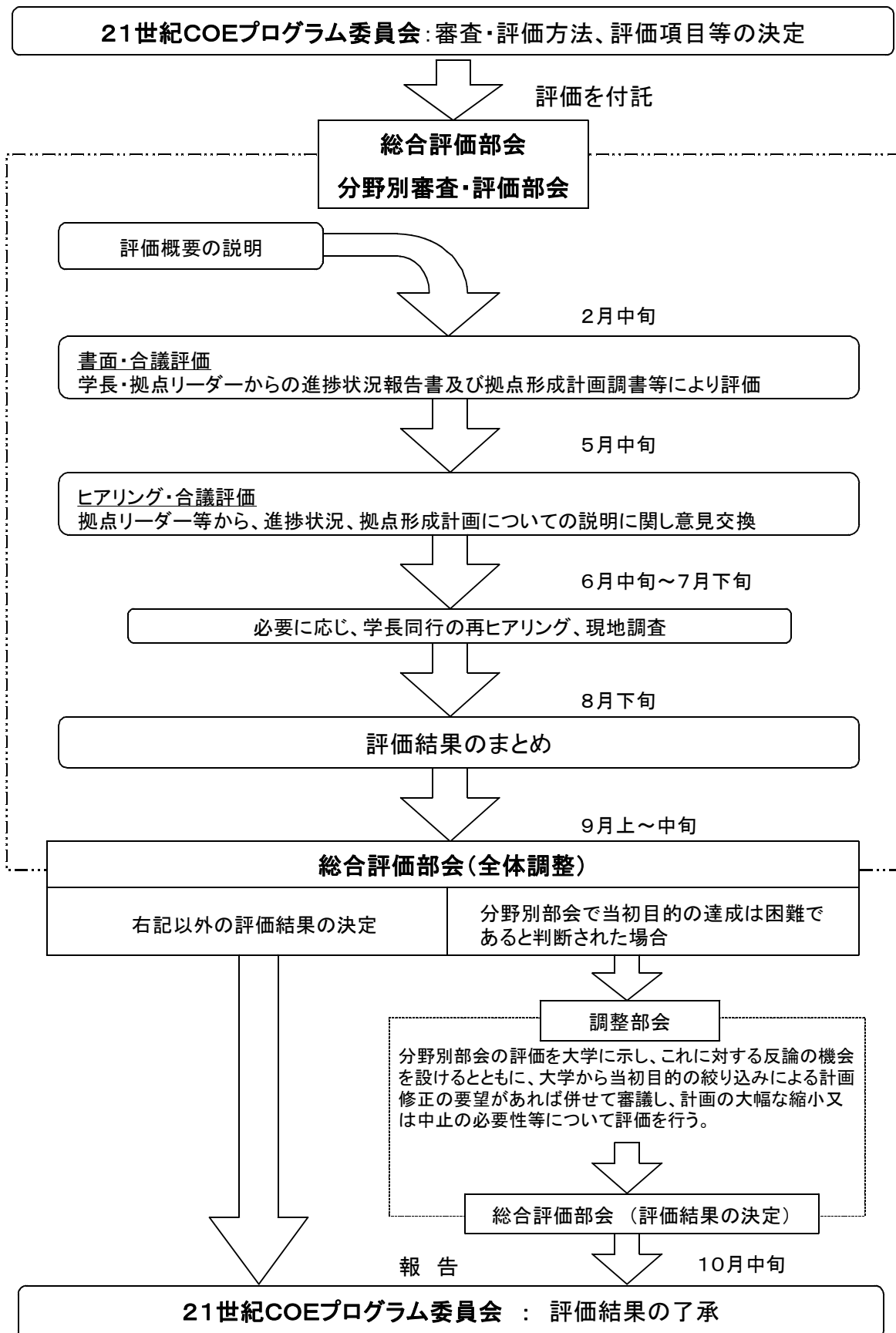
(5) その他

この要項に定めるもののほか、評価の実施に関し必要な事項は別に定める。

6. 評価体制



7. 評価手順



6. 21世紀COEプログラム 平成16年度採択拠点中間評価【特色ある拠点例】

一人材育成面・研究活動面の双方が順調に進捗している拠点の例一

東京工業大学「地球:人の住む惑星ができるまで」

地質・地球物理・地球化学・惑星科学という従来から関連して進められている分野に環境学・生命科学を融合させて、革新的分野として生命惑星地球学の創出を目指す当拠点は、2年間に230編という優れた国際的研究業績を挙げるのみならず、研究科を横断した「生命惑星地球学特別コース」や「地球史研究センター」の設置など、人材育成や有機的連携面での措置も充実しており、世界的な研究教育拠点の実現に向けた取り組みが順調に進められている。

一人材育成面で順調に進捗している拠点の例一

京都薬科大学

「伝承からプロテオームまでの統合創薬の開拓ー生物分子基盤の革新的難病治療薬創製ー」

COE発足以前から大学が持つ豊富な素材と実績を基盤に、難治性疾患の治療に資する数々の研究成果を挙げるとともに、英語による研究交流会の開催、関連分野への短期参画、アドバイザーとの定期的交流など、きめ細やかな少人数教育体制のもと、世界をリードする人材育成が順調に進められている。

一特色ある研究活動が推進されている拠点の例一

岐阜大学「衛星生態学創生拠点ー流域圏をモデルとした生態系機能評価ー」

生態プロセス研究、リモートセンシング解析、気象観測・モデリングの融合・統合を図り、総合的・実践的な環境科学である「衛星生態学」の創生を目指す当拠点は、小規模の研究組織体制ながら、リモートセンシングを用いた高山における長期CO₂観測サイトとして国際的な評価を受けており、世界水準での研究の発展に資することが期待される拠点として順調に推進されている。

大阪大学「細胞・組織の統合制御にむけた総合拠点形成」

基礎研究から臨床応用までを直結させた再生医学（人工臓器等の組織・臓器代替医療技術）を確立することを目標とし、基礎医学、生物学、臨床医学、工学等、異分野間の有機的連携面で目覚ましい進展を見せているほか、実際の研究活動でも数々の優れた成果を挙げており、大学に新たな個性を付加する拠点として順調に進められている。

九州産業大学「柿右衛門様式陶芸研究センタープログラム」

柿右衛門様式磁器の全体像を作陶現場との協同によって解明し、さらにはその成果を大学院カリキュラムに反映させ伝統工芸のレベルアップを図るというユニークな試みは、日本文化の発展、発信という点からきわめて意義が大きく、文様データベースの構築や国内外における磁器の所在調査等、大学に新たな個性を付加する拠点として順調に推進されている。

二松学舎大学「日本漢文学研究の世界的拠点の構築」

日本漢文学の学際的・国際的研究体制の構築を目指す当拠点は、我が国の文化の理解、保存、発展、さらには発信に大きく貢献することが期待され、江戸期漢文データベースの構築等の意義深い取り組みが進められている。